

授業改善書

科目名	中国古典文学
担当者	柳川響

授業の概要

「中国古典文学」の授業では、六朝宋の劉義慶が編纂した志人小説『世説新語』を扱った。最初に作品や作者、日本文学への影響などを概説した後、人物ごとに章段を取り上げて読解することで、激動の時代を生きた人々の反骨精神や機知に富んだ言行がどのような背景で生まれ、享受されていったかについて講義を行った。教材としてプリントを配布し、パワーポイントを用いながら授業を進めた。授業の終わりにはその日の授業内容に関する問いを出し、リアクションペーパーに記述させることで授業への積極的な取り組みを促した。また、質問や要望についても随時記入できるように配慮し、学生の理解の度合いを把握できるように努めた。そして、リアクションペーパーに書かれた内容を踏まえ、次の授業の冒頭で復習や補足説明をするなど、フィードバックを行った。

授業の問題点

問題点としては、受講した学生が授業中に質問や発言をする機会が少なかったことが挙げられる。学生がそれぞれ自分で本文を読むタイミングなど、授業の合間に何か質問や疑問点は無いと呼びかけることはあったが、自発的な発言を求める程度であったため、一方通行の授業になりがちであった。また、第11回目の授業の時から定期試験に向けた課題を提示したが、それ以前は復習を指示する程度で具体的な課題を課すことはなかったため、授業外の学習のやり方が分かりにくいという意見もあった。アンケートでノートを取っていない学生がいたことも合わせて考えると、もう少し予習や復習の内容を具体的に示すべきであったと考える。

学生の授業満足度

アンケートにおける授業全体の満足度は八割程度であった。昨年より授業内容を少し変更し、レジュメやパワーポイントの改良を行ったにもかかわらず、昨年より数値が下がったので、まだまだ改善の余地があると思われる。アンケートでは、授業内容に対する学生の興味や関心も授業全体の満足度とほぼ同じ数値であった。そのため、授業全体の満足度を上げるためには、学生の興味や関心をさらに高める必要があると言える。また、教員の説明の分かりやすさも同程度の水準であることから、分かりやすく面白い授業をつくっていくことが今後の課題である。

授業改善の課題と方策

今回のアンケート結果を踏まえて考えると、学生の自発的な発言が少ないこと、ノートを取っていない学生がいること、授業時間外での学習があまりできていないことが課題として挙げられる。それゆえ、改善策としては、学生に対して一方的な講義とならないように、学生を指名して発言を求めるなど、質疑をより活発に行い、双方向的に授業をつくっていくことが必要であると考えた。また、授業中に具体的な学習のポイントを明示し、定期的に課題を課すことで、学生のより積極的な取り組みを促し、授業時間外にも各自が学習できるようにしたい。

その他

今年度の授業の経験や反省を今後の教育活動に生かしていきたい。